

第1学年 生活科学習指導案

ろ組 男子 17 名 女子 18 名 計 35 名
指 導 者 寶 地 拓 也

1 単 元 みんなで あそぼう

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、学校探検の活動等を通して、学校生活のきまりやルール、学校の施設の様子が分かり、落ち着いた学校生活が送れるようになってきている。また、学習や休み時間、行事など、友達と関わり合う中で、『もっと体を動かして遊びたい』『みんなと楽しく過ごしたい』という思いや願いをもつようになってきている。

そこで、本単元では、友達と協力したり、工夫したりしながら学校の砂場や身近な公園で遊ぶ活動を通して『もっと体を動かしてみんなと楽しく遊びたい』という思いや願いを達成していく楽しさを味わわせ、友達と遊びを創り出そうとする意欲を高めようとするものである。同時に、これまでの経験を基に、諸感覚を使って自分なりに遊びを工夫したり、気付いたことを表現したりする力を培う。また、校内や公園内での遊び方や、友達と協力することのよさに気付いたり、道具や公共施設の正しい使い方、後始末の仕方などの習慣・技能を身に付けたりすることができるようにする。さらには、これらの活動を通して、自分のよさや成長に気付かせていくこともねらっている。

なお、これらの活動は、『他にも楽しいことをやってみたい』『学校にいる生き物とも仲良くなりたい』という思いや願いとして、「いきものとなかよし」の活動へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

遊びは、子どもの『やってみたい』という思いや願いから始まる自発的なものであり、遊びを通して自分の思いや願いを実現していく中で、自分らしさを表現したり、友達と楽しみながら遊びを創り出そうとしたりするものである。また、思考と行動が未分化なこの時期の子どもたちにとって、体全体を使って活動できる遊びは、諸感覚を使うことができ、自ら考え、判断し、行動する基盤となる力を培うことにつながる有効な方法であり、内容である。さらに、砂は形を自由に変えることができ、自分で思ったものを表現したり、すぐに作り直したりできる可塑性をもち、その子なりの試行錯誤が生まれる素材である。公園は、遊び場としての遊具や利用する人々、施設、草花、生き物など、子どもを取り巻く環境の縮図であり、そこでの遊びを通して、同じ活動を行う友達との関わりが生まれやすい場所である。さらに、砂や公園といった身近なもので遊ぶ活動は、友達と一緒に遊ぶ楽しさを十分に味わいながら、遊びを創り出そうとすることができるものである。

そこで、本単元の展開に当たっては、このような活動に主体的に取り組み、活動で得た気付きを広げたり深めたりしながら、自分と対象とのつながりを実感できるようにするために、学校の砂場や身近な公園での活動を通して、諸感覚を使って友達と遊びを創り出していく活動の設定と、学校の砂場や身近な公園で遊ぶことの面白さを伝え合ったり、友達と関わり合うことのよさを振り返ったりする交流活動の設定を重点化していきたい。

具体的には、まず、「さんぽにでかけよう」の活動で、『友達と楽しく遊びたい』という思いや願いを基に、学校探検で見つけた施設や遊具など紹介し合い、その場所で遊ぶ活動を設定する。次に、さんぽの活動で高まった思いや願いを基に、「すなばであそぼう」の活動へと展開し、砂で遊ぶ活動を設定する。その際、思いや願いの実現に向けて試行錯誤する中で、同じ思いや願いをもった子ども同士が出会い、交流しながら疑問や問題を解決していけるようにする。そして、砂場遊びで高まった思いや願いをもとに、活動場所を学校から地域へ広げ、「こうえんであそぼう」の活動へと展開する。公園遊びでは、公園で遊ぶ活動を繰り返し設定し、自分達で遊びを創り出すことや友達と一緒に遊ぶことの面白さに気付くことができるようにする。その際、活動を通して、気付いたことや友達の取組のよさを伝え合い、次時の公園での遊びにつながるような振り返りの活動を毎回設定し

ていく。最後に、夏休み前に、「もうすぐなつやすみ」の活動を設定し、これまでの活動を基に、夏休みの自分の生活について話し合わせ、家庭や地域での生活へ意欲を高めるようにする。

このような活動を通して、子どもたちは、身近な自然やものを生かした遊びを自分とのつながりで捉え、活動に対する成就感や満足感を味わうと共に、思いや願いの実現に向けて試行錯誤し、遊びを創りだしていこうとする態度を高めることができる。このような学習を積み重ねることで、身近な自然への認識を深めたり、生活上必要な習慣・技能を身に付けたりしながら、自分の可能性を実感し、自信と意欲をもって主体的に学んだり、生活しようとしたりしていく。

(3) 子どもの実態（対象者 ろ組 35 名、数値は延べ人数）

<砂遊びの経験>

○ある…35 名 ○ない…0 名

<これまでに砂で作ったもの>（複数回答）

・山…20 人 ・トンネル…11 人 ・ケーキ…10 人
・団子…5 人 ・お城や家 5 人 ・動物…1 人
・無回答…3 名

<砂や土遊びで気をつけること>（複数回答）

・砂をかけない…18 名 ・仲良くする…10 名
・片付け…8 名 ・衛生面…6 名 ・無回答…3 名

<公園で遊んだ経験>

○ある…35 名 ○ない…0 名

<公園で気をつけること>（複数回答）

・危険なことをしない…15 名 ・順番…10 名
・けんかをしない…7 名 ・時間を守る…3 名
・衛生面…3 名 ・トイレ…1 名 ・無回答…5 名

<友達との遊びへの関心とその理由>

○すき…30 名 ○すきではない…5 名

・楽しくなる…15 名 ・凄いものが作れる…7 名
・けんかになる 5 名 ・仲良くなれる…3 名
・速くなる…2 名 ・無回答…3 名

全ての子どもが砂場遊びの経験があるが、山やトンネル、ケーキなど単体なものが多い。そこで、個々の作品をつなげたり、合わせたりしながら遊ぶ交流活動を設定し、できた作品を意味付けたり、価値付けたりする中で、協力して遊ぶ楽しさを味わわせていく必要がある。気を付けることとしては、安全面以外にも、片付けの必要性や衛生面で気を付けることについて、具体的に指導する必要がある。全ての子どもが公園遊びを経験している。そこで、これまでの経験を生かしながら、公園で楽しく遊ぶための工夫や公共物の正しい使い方について考えさせていく必要がある。友達と一緒に活動することのよさについて気付いている子どもが多いが、けんかになるといった理由から友達との交流を消極的に捉えている子どももいる。そこ

で、どうしたらもっと友達と楽しく遊ぶことができるかこれまでの経験と関連付けさせながら、楽しく遊ぶ方法について考えを交流させたり、教師が子どもと一緒に遊ぶ中で新しい遊びを紹介したりしながら、自分なりに遊びを工夫していけるようにする必要がある。なお、この時期は幼児期の自己中心性が残っており、活動中は些細なことでトラブルが起こることが予想される。その際、教師は、双方の考えを聞き、次からどのように行動したり、発言したりしたらよいか考えられるように励ましていく必要がある。

(4) 指導上の留意点

ア 「さんぽにでかけよう」の活動では、『自分達で見付けた場所で友達と楽しく遊びたい』という思いや願いを高めるために、学校探検で見付けた友達と遊んでみたい場所を紹介し合い、その場所で活動する時間を設定する。その際、身近な自然やものを様々なものに見立てて遊ぶ楽しさに気付かせるために、「面白いところはどこかな。」「何に見えるかな。」と問いかける。そして、身近な自然やもので遊ぶことの面白さを共有することができるようにするために、気付いたことを自分なりにカードにかいて表現し、友達と紹介し合う振り返りの場を設定する。また、さんぽでは、『砂場で遊びたい』という思いや願いをもちさせるために、砂場近くを意図的に通り、砂で遊ぶ時間を設定することで、砂遊びへの意欲を高めることができるようにする。

イ 「すなばであそぼう」の活動では、子どもが諸感覚を使って活動にじっくりと取り組み、試行錯誤しながら活動することができるようにするために、図画工作科「ようこそすなのくにへ」と合科的に扱い、砂でたっぷりと遊べる時間を設定する。また、砂への気付きや活動の内容を発展させていくために、これまでの砂遊びの経験を想起させたり、互いの作品を比べたりする交流活動を取り入れていく。その際、友達と協力していくことへの思いや願いを高めることができるようにするために、「この砂場をみんなでもっと面白くできないかな。」と問いかけ、「砂の王国を作ろう」といった学級のテーマを決める。そして、協力しながら砂で遊ぶ面白さに気付かせていく

ために、共通の思いや願いをもった子ども同士でグループをつくり、友達と一緒に作っている様子やこれまでの作品の写真を掲示し、それらを基に友達と協力しながら交流活動を展開していく。なお、雨が降った場合でも、室内で工夫して、新たな遊びや考えを見いだしていけるようにするために、身近なものを利用しながら思いや願いが共通した子ども同士が出会うことができる場作りを行い、交流活動を通して友達と協力することのよさに気付かせていく。

ウ 「こうえんであそぼう」の活動では、友達との関わりを深め、公園の利用の仕方に気付いたり、新たな遊びを見いだしたりすることができるようにするために、繰り返し公園に出かけ、気付いたことや自分のやりたいことをカードにかいて、地図に貼り付ける活動を設定する。その際、遊びの約束やルールを工夫することのよさに気付かせていくために、同じ思いや願いをもった子ども同士でグループをつくり、「もっと楽しく遊ぶためにはどうしたらいいかな。」と問いかけ、これまでの経験を基に、今後の活動が展開されるような振り返りを行う。

エ 「もうすぐなつやすみ」の活動では、めあてをもった夏休みを送ることができるようにするために、これまでの学習で分かったことや、できるようになったことを振り返らせる。その際、自分でアサガオを育てた経験から夏休みも継続してできることはないか気付いたことを伝え合う交流活動を設定し、自分なりにめあてをもって夏休みを迎えられるようにする。

3 目 標

- (1) 砂を使った遊びや公園遊びの面白さ、友達と協力することのよさに気付くとともに、道具の片付けや安全への意識、遊びのルールやマナーなどの習慣・技能を身に付けることができる。また、楽しく遊べた自分や友達と仲良く関わることができた自分のよさに気付くことができる。
- (2) これまでの遊びの経験や友達との交流をもとに、試行錯誤しながら学校内や公園での遊びを工夫したり、友達と関わり合ったりしながら、自分なりに遊びを見いだすことができる。また、自分が思ったことや感じたことを絵や言葉などで表現することができる。
- (3) 『もっと体を動かして遊びたい』『みんなと楽しく過ごしたい』という思いや願いをもとに、砂場遊びや公園遊びなどに進んで取り組むことができる。

4 指導計画(全 18 時間)

活動する 楽しさ	活 動 名 (思いの連続と気付きの様相)	主 な 学 習 活 動 (時 間)	学習形態・環境構成 教師の具体的な働きかけ
○学校の面白い場所 を探す楽しさ	・学校にはまだまだ知らない面白 そうな場所がたくさんありそうだね。 ・面白そうな場所に行きたいね。	学校探検の経験をもとに、 遊具や施設へ出かけて、友達 と自由に遊ぶ。(1)	・さんぼへの活動の意欲を高 めるために、学校探検で見つ けた場所の写真を掲示する。
○見つけた場所で遊 ぶ楽しさ	さんぼにでかけよう (2時間)	見つけたことや気付いたこ とをカードにかいて発表す る。(1)	・ 道具を選んだり試したりし ながら自分なりに工夫して、 砂遊びができるようにするた めに、砂場近くに道具コー ナーを設置する。
○面白い場所を伝え る楽しさ	・友達と思いっきり遊びたいな。 ・裏庭にあった砂場で遊ぶのが楽し かったよ。	これまでの経験を生かしなが ら砂で遊ぶ。 <本時> (2/2)	・ 『友達と協力して砂場をも っと面白くしたい』という思 いや願いを高めるために、高 見台から砂場を眺めさせ、砂 場全体がどのように変わって きたかを伝え合う交流活動を 設定する。
○体全体で遊ぶこと ができる楽しさ	すなばであそぼう (6時間)	友達と協力して砂で遊ぶ。(2)	
○砂の不思議さや面 白さに気付く楽し さ	・砂って面白いな。 ・みんなで協力すると、もっと楽し く遊ぶことができるんだね。 ・他の場所でも楽しく遊びたいな。	雨の日の遊びを話し合い、友達と 仲良く遊ぶ。(2)	
○友達と協力して作 ることができる楽し さ	・砂って面白いな。 ・みんなで協力すると、もっと楽し く遊ぶことができるんだね。 ・他の場所でも楽しく遊びたいな。	自宅近くとの違いを見つけた り自由に遊んだりする。(2)	
○公園で新たな遊び を見いだすことが できる楽しさ	こうえんであそぼう (9時間)	公園での遊びの計画や約束を 話し合う。(1)	・ 公園での適切な利用の仕 方に気付かせるために、遊ん でいて困ったことやどんな人 が使っていたかを想起させ、こ れからの利用の仕方を考えさ せる。
○楽しく遊べたり、 友達と協力できたり した自分のよさに 気付く楽しさ	・公園でも楽しく遊ぶことができた よ。 ・みんなと仲良く遊んで、楽しく過 ごすことができたよ。	計画をもとに公園で友達と仲 良く遊ぶ。(5)	
○今後の生活につい て、考えたり、表 現したりできる楽し さ	・もうすぐ夏休みだね。 ・どんなことをしようかな。	公園の秘密を見つけたり、楽 しかったことを発表したりする。 (1)	・ 意欲的に夏休みを過ごせる ようにするために、やりたい ことをめあてカードに書かせ る。
	もうすぐ夏休み (1時間)	夏休みの生活について話し 合う。(1)	

5 本 時（4／18）

(1) 目 標

『砂でもっと楽しく遊びたい』という思いや願いを基に、試行錯誤しながら進んで砂で遊ぶ中で、これまでの経験と関連付けて遊んだり、友達との交流を生かしたりして、自分の作品を工夫するとともに、砂で遊ぶ面白さや友達と交流することのよさに気付くことができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時の展開に当たっては、砂で遊ぶ面白さや友達と交流することのよさを捉えさせることが大切である。そこで、「～～するにはどうしたらいいかな。」と問いかけ、これまでの経験と関連付けて、砂の面白さを捉えさせる。また、友達と取組や工夫の比較を通して、その違いから新たな考えや活動を見いだしたり、「〇〇さんが～～で困っているんだけど、どうしたらいいかな。」と問いかけ、同じ思いや願いをもった子ども同士で疑問や問題を解決したりできるようにする。

(3) 準 備

材料(砂、土、水など)、道具(スコップ、バケツ、手押し車など)、ラジカセ、移動黒板 など

(4) 展 開

学習過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
意 欲 を も つ	本時が始まる前に、子どもたちは自分の力で身支度を整えて、砂場周りに集まるようにする。 1 前時までの活動を振り返り、本時の学習について話し合う。 ・砂で遊ぶのは楽しかったな。 ・もっと砂で遊びたい。砂ともっと仲良くなりたい。 すなさんと もっと なかよく あそぼう。 2 道具の使い方や安全な遊び方などについて前時を振り返り、確認する。 ・道具の使い方 ・ルールやマナー ・衛生面 3 工夫しながら遊ぶ。 前時までの活動 山、川、ケーキ、団子、トンネル、穴、建物、池 など 思いや願い 大きくて高い山を作りたいな。 おいしそうなケーキをたくさん作りたいな。 試行錯誤する活動 崩れないようにするにはどうすればいいかな。 形が違うものをたくさん作るにはどうしたらいいかな。 自分の作品 ↔ 友達作品 友達と比較をしてみよう 形が違う容器を使ったり、友達と協力したりしている。 これまでの経験と関係付けて 水を使うと崩れにくい山ができる。 一緒に作るといいね。 新たに発見した気付きや活動 高い山にするには、水を使って崩れにくくすればいいんだね。 色々な容器を使ったり、友達と一緒に作ったりするとたくさん作れるね。 4 道具の後始末をする。 5 活動を振り返り、できたことや楽しかったことを伝え合う。 ・砂を水で固めて凄い大きな山ができたよ。 ・〇〇さんと一緒にできて楽しかった。 ・砂さんと楽しく遊んで、仲良くなったよ。 ・町に見えるね。みんなで砂の王国を作ってみよう。	(分)	○ 『砂でもっと楽しく遊びたい』という意欲を高めることができるようにするために、前時に作った作品の写真を掲示し、「今日は砂さんとどうなりたいかな。」と問いかける。 ○ 砂のよさや道具の使い方など様々な工夫を共有することができるようにするために、見取った気付きを小黒板に提示し全体で共有できる場作りを行う。 ○ これまでの経験を生かしながら、新たな活動を見いだすことができるようにするために、「～～するにはどうしたらいいかな。」と問いかける。 ○ 友達と交流することのよさに気付くことができるようにするために、「〇〇さんはどんな工夫をしているかな。」と問いかけ、工夫の違いを比べられるようにする。また、「〇〇さんが～～で困っているんだけど、どうしたらいいかな。」と問いかけ、疑問や問題の解決に向けて、交流活動が生まれる場作りを行う。 ○ 個への対応 (1) 進んで工夫しながら活動している子ども 自分なりに考えて活動していることを称賛するとともに、考え方のよさを認め、周囲に広げる。 (2) 活動に戸惑っている子ども 戸惑っている原因を探るとともに、教師が共に活動したり、共通の思いや願いをもった子ども同士出合い、解決策を見いだしたりできるようにする。 (3) 活動が早く終わった子ども やり遂げたことを称賛するとともに、他の友達の取組のよいところを問いかけ、自分の作品と比べさせることで、新たな活動を見いだせるようにする。 ○ 活動の終わりに気付き、進んで後始末ができるようにするために、音楽を流す。 ○ 活動を振り返る中で、自分達の取組のよさに気付き、今後の活動への意欲を高めるために、高見台から砂場全体を見せ、「砂場がどんな場所に変身したのかな。この砂場をみんなでもっと面白くできないかな。」と問いかける。
活 動 す る		10	
		25	
振 り 返 る ・ 生 か す		10	

